

Newsletter

October 1, 2012

vol.30 | 学習院大学国際交流センター
Centre for International Exchange
Gakushuin University



世界17の国・地域から

学習院大学の外国人留学生

皆さんが学んでいるキャンパスには、何カ国からどれぐらいの数の外国人留学生が在籍しているかご存知でしょうか？ 普段、国際交流センターの窓口業務で、「学習院大学には、留学生はあまりいないのですか？」「英語が話せなければ、留学生と友達になれませんか？」などの質問を時々受けることがありますので、あまり知られていないのが現状でしょう。

そこで、皆さんに留学生のことを知ってもらい、彼らの存在が少しでも身近になってもらえるよう、本学における留学生についてをご紹介します。

冒頭の質問の答えですが、世界17の国や地域から、約160名*1の外国人留学生が日本人学生と一緒に学んでいます(*1内訳は、右記一覧表参照)。日本語や日本文学を学ぶため、経済学や経営学などの専門知識を高めるため、マンガやアニメを本場で学びたい、など留学の目的は様々です。外国人留学生と一言でいっても、それぞれに在籍形態があり、大きく3つ*2に分けられます(*2後述を参照)。

まずは、留学生のことを少しでも理解し、これをきっかけに留学生や国際交流に興味を持って頂ける方がいれば、国際交流センターとしても、とても嬉しいことです。

国際交流センターには、特に昼休みの時間帯などに留学生が多く集みますので、是非彼らに話しかけてみて下さい。また、国際交流センターボランティア*3に登録すると、留学生関係行事のお手伝い募集などのお知らせがG-Portで配信されますので、そういった行事の中で、留学生の友達を作ることできます>(*3募集については後述参照)。

留学生と交流をしたり、友達になったりすることは、すぐにでもできる環境があります。あとは、一歩踏み出そうとする勇気と、様々な国のことを知ろうとする好奇心ではないでしょうか。もちろん、共通言語は日本語ですので、外国語が理解できなくても全く問題ありませんので、ご安心下さい。

私費留学生

外国人入試(院生は一般入試)を経て入学し、一般学生と同様に学位取得を目的に、4年間(院生は2~3年間)在籍する外国人学生のこと。現在、学部生・院生合わせて140名の私費留学生が在籍し(研究生含む)留学生全体の88%以上を占めています。学費・生活費など全て私費で賄っているため、アルバイトをしている留学生も数多くいます。日本での就職を希望する学生も多く、就職活動を日本人と同様に3年生の秋頃から開始します。得意の語学や国際性を活かし、日本企業で活躍したり、母国に帰って日本に関連のある仕事をする留学生もいます。

協定留学生

毎年4月と9月に来日する、本学の協定校からの留学生で、毎年約15名を受け入れています。半年、又は1年間に在籍をし、自分が専攻する学部や研究科に所属し、日本語や日本文化、その他専門科目を学んでいます。本学での協定留学がきっかけで、再び来日して、更に上の学問を極めたり、日本で就職したりする留学生もいます。

国費留学生

日本政府からの奨学金を得て日本に留学している学生のこと。在籍期間は正規生、委託生によって異なります。現在は、インドネシアとロシアから、2名の国費留学生が在籍しています。

【本学に在籍する外国人留学生一覧(平成24年5月現在)】(在留資格「留学」の者)

国・地域	留學生種別	私費留學生	協定留學生	国費留學生	合計
中国		65	0	0	65
中国(香港)		3	0	0	3
中国(マカオ)		1	0	0	1
台湾		1	3	0	4
韓国		65	1	0	66
タイ		1	0	0	1
ベトナム		1	0	0	1
インドネシア		0	0	1	1
サウジアラビア		1	0	0	1
ロシア		0	0	1	1
アメリカ		0	4	0	4
フランス		0	4	0	4
アイルランド		0	1	0	1
イタリア		0	2	0	2
ハンガリー		1	0	0	1
オーストラリア		1	0	0	1
ニュージーランド		0	1	0	1
合計		140	16	2	158

協定留学生日本留学レポート

リヨン第二大学(フランス) レ・シャルロット・マリ

(平成23(2011)年9月から平成24(2012)年8月まで日本語日本文学科に在籍)

日本に着いたばかりの時に日本語をあまり話すことができませんでしたので大変でした。しかし、日本語初級の授業のおかげでだんだん日本語をうまく使うことになりました。この授業の先生たちはやさしくて説明も分かりやすいです。

私のBuddyとSA Lessonのアシスタントもとても分かりました。

その上に、私が取った授業は難しかったです。しかし面白いことを勉強することができました。先生と私の論文の研究について、話しをするときに色々なことを教えてくれました。これはもともと日本と学習院大学に留学する一つの理由でした。ほかの理由は新しい方に出会ったり、新しい文化を発見したり、新しい場所を見に行ったりすることでした。

私の研究と同じように、このたくさんやってみたかったことは成功しました。

楽しいことも悲しいこともありましたが、今年はとてもよかったです。

(原文のまま)

